学校番号	405

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「世界史Ｂ　新訂版」（実教出版）						
副教材等	「明解世界史図説　エスカリエ」（帝国書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「なぜ」という視点を持つこと
・現代社会の問題を歴史の流れとして把握すること
・日本史と関連付けて考える

２　学習の到達目標

・特定の地域だけではなく、地域間のつながり（横のつながり）も考察できる力を培う
・近現代を中心に、現代社会の諸問題を歴史的観点から考察することができる

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	国際社会の課題を解決しようとする意識を持とうとしている。	文献・史料から、時代や指導者などの様子を読み取る。そして、その時代や政策を評価し、表現している。	史料を読み解くことができ、図表にしてまとめたりする	世界史の基本的な事柄について理解し、知識を身に付けている
評価方法	レポート ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査 ワークシート	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	近世ヨーロッパ世界	・ヨーロッパ世界の拡大 ・ルネサンスと宗教改革 ・主権国家体制の形成	○	○	○	○	a:ヨーロッパとアジアのつながりに関心を持ち、ヨーロッパにどのような影響を与えたのかを追求しようとしている b:作品や史料を読み取り、ヨーロッパの人たちの考え方がどのように変化してきているのかを考察し、表現している c:グラフを読み取り、ヨーロッパの変化を考察している d:諸外国の動き主権国家について理解している	定期考査 ワークシート
	近世ヨーロッパ世界の展開	・ヨーロッパの主権国家体制 ・ヨーロッパの海外進出 ・産業革命 ・アメリカの独立 ・フランス革命	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	a:革命のあとの社会の変化に関心をもつことができているか b:革命やその指導者について評価・判断をおこない、それを表現している c:革命後の変化をグラフや史料から考察し、読み解いている d:近世から近代への転換期ということを理解し、その知識を身に付けている	定期考査 ワークシート
2学期	近代国家の発展	・ウィーン体制の成立と崩壊 ・南北アメリカの発展 ・アジア諸地域の動揺	 ○	○	○ ○	 ○	a:列強諸国の支配に対して、支配されている地域のことに関心をもつことができ、どのように対抗しようとしていたかについて追求しようとしている b:フランスの政体の変化について理論的に考えることができている c:絵画やグラフなどから、当時の様子の変化を読み取ることができる d:日本の近代化と関連付けて理解している	

	帝国主義と第一次世界大戦	・帝国主義 ・アジア諸国の改革 ・第一次世界大戦 ・ロシア革命	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:日本史と関連して、世界の動きを理解しようとしている b:地図などの活用により、世界の動きを把握することができている c:グラフなどから列強の動きや序列を考えることができる d:帝国主義の流れ、民族運動の流れからの第一次世界大戦を理解している	
3学期	第一次世界大戦後の世界と第二次世界大戦	・ヴェルサイユ体制化の欧米諸国 ・アジア・アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦 ・二次大戦後の世界と東西冷戦	○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:なぜ、ドイツでヒトラーという独裁者が政権を握ることになったのかを理解しようとしている b:第二次世界大戦にいたる背景を把握し、国際社会・国際政治について考え、論述することができる c:グラフなどを活用し、列強の力を把握することができる。 d:第二次世界大戦までの流れを把握し、現代社会の基礎となる歴史的な知識を身に付けている	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。